



学校だより

平成30年 9月 3日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.486

ウォルト・ディズニーの夢の国

校長 谷田 弘子

長い44日間の夏休みが終わりました。休み中、大きな事故や事件などの報告はありませんでした。児童は、沢山の体験や経験をして大きく成長したようです。今年の夏は、酷暑で、気温が36～39℃という日が続きましました。プールサイドでも熱中症になりそうな日が多く、指導時間を短くし、水分補給をし、検定日には、検定を受ける時だけプールサイドに行き、待ち時間は体育館にいるようにしました。様々な工夫により、何とか無事に終えることができました。水筒持参にご協力いただき、ありがとうございました。

今年の夏、久しぶりに東京ディズニーランドに行ってきました。みなさんの中にも、東京ディズニーランドやディズニーシーに行った人が多いのではないのでしょうか。今回は、アメリカに初めてディズニーランドができたときのお話です。ディズニーランドを作ったのは、ウォルト・ディズニーです。ウォルト・ディズニーは、今から100年以上前の1901年、アメリカのシカゴで生まれました。アニメーターや映画監督として活躍し、世界的に有名なアニメーションキャラクター「ミッキー・マウス」の生みの親です。

そのウォルト・ディズニーが、アメリカ合衆国のカリフォルニア州に自分の名前を付けたテーマパーク、ディズニーランドを開設しました。でも、ウォルト・ディズニーは、ディズニーランドに来る何十万人もの入場者が散らかすゴミをどうしたらよいかと頭を痛めていました。毎日いろいろな方法を試みたのですが、なかなかうまくいきません。そんなある日、ウォルト・ディズニーは、一カ所だけゴミがない場所があるのを発見しました。「なぜだろう。なぜこの場所だけゴミが落ち

ていないんだろう。」と考えていたら、その場所がピカピカに磨かれて、とてもきれいな場所だということに気が付きました。「そうか、ちりのない美しい床にゴミを捨てたり、つばを吐いたりすることは、誰もがためらはずだ。」人間の「ためらいの心」に訴えればよいということに気が付いたのです。

そこで、ディズニーランドがオープンして朝のきれいな状態をずっと保つために、ウォルト・ディズニーは、まずきれいにデザインしたゴミ箱をたくさん置きました。そして、掃除係の人の他に社員の人はもちろん、動物の着ぐるみに入ったアルバイトの人などにも、目に付いたゴミを拾ってもらうことを徹底しました。最初は、お客さんが捨てれば、すぐに誰かが拾う、また捨てれば拾うの繰り返しでした。そのうちにみなさんも行った東京ディズニーランドのようにゴミが一つも落ちていない美しい場所になったそうです。人間の「ためらいの心」に訴えた発想のすばらしさや、ディズニーランドは夢の国なのだから、お客さんには美しい場所で楽しんでほしいという気持ちは考えさせられることです。

夏休み中に学校では、廊下の張り替え、教室や廊下、階段、昇降口の掃除とワックスがけ、エアコンの大掃除などが行われました。児童が気持ちよく学校生活に戻れるようにと、思っていることです。2学期の始まりから、児童が毎日心をこめて掃除を行い、気持ちよく勉強ができるようにしていきたいと思ひます。9月末には運動会があります。様々な道具を使って練習が行われます。自分が出したゴミでなくても、ゴミが落ちていたら、気が付いた人が拾ってくれ、ぴかぴかな学校になるようにしていきたいと思ひます。